

平成29年11月秋田市議会定例会一般質問者順序

秋 水 会 安 井 正 浩

そ う せ い 藤 田 信

フロンティア秋田 佐 藤 哲 治

市 民 ク ラ ブ 渡 辺 良 雄

公 明 党 松 田 豊 臣

共 産 党 鈴 木 知

秋 水 会 伊 藤 一 榮

そ う せ い 小 松 健

秋 水 会 岩 谷 政 良

秋 水 会 小 木 田 喜 美 雄

- 1 中・長期財政見通しと平成30年度予算編成方針について
 - (1) 中・長期財政見通しにおける財政運営上の課題への対応について
 - ア 単年度赤字が続くことにより財政調整基金や減債基金が大きく減少することへの対応策をどのようにするのか
 - イ 機械的な経常経費の一律2%カットは実現可能なのか、また、それによって賄われる措置費が大幅に増加する理由は何か
 - ウ 明記されていない他会計への繰り出し金の見込みはどのようなものか
 - (2) 平成30年度予算編成方針について
 - (3) 低金利を見越した社会インフラの整備促進について

- 2 芸術文化ゾーンと旧県立美術館、佐竹史料館及び千秋公園再整備基本計画について
 - (1) 旧県立美術館の利活用について
 - ア 県から無償譲渡を受けることが前提となっているが、使用貸借で利活用を進めることはできないか
 - イ 県から無償譲渡を受けた場合、10年後、20年後の長期的な活用策をどのように考えているのか
 - ウ 市から県へ改修を要望しているが、これに対する県の対応見通しはどうか
 - エ これまでのワークショップにおける市民の意見をどのように受けとめているのか
 - (2) 佐竹史料館建てかえの進捗状況はどうか、また、旧県立美術館に持たせる歴史文化交流機能と佐竹史料館とのすみ分けはどのようにするのか
 - (3) 千秋公園再整備基本計画における、芸術文化ゾーン及び中心市街地とのかかわりは、どのように考えているのか
 - (4) 芸術文化ゾーンによる「新たなまちの魅力づくり」と「にぎわい創

出」のためには、ハード面の整備に加えて、民間活力を取り込むソフト面の仕組みづくりが欠かせないと考えるがどうか、また、芸術文化ゾーン具現化の暁には、市民はまちの変化を何らかの形で実感できるようになるのか

3 「イージス・アショア」の秋田市内への配備について

- (1) 国からの情報提供はどのようなものであったのか
- (2) 秋田市内への配備が決定された場合には、市民が不安を抱くことがないように、国に対して丁寧な説明などの善処を求めるべきではないか

4 災害時要援護者の避難支援への対応について

- (1) 当初の制度設計について、見直すべき責務があるのではないか
- (2) 中央市民サービスセンターへ権限移譲したが、制度設計した部局の管理監督責任をどのように考えているのか
- (3) 実務上の課題が数多く発生しているが、今後の対応はどのようにするつもりなのか

5 「新屋ガラス工房」の運用について

- (1) ギャラリーの利用と展示の工夫が必要ではないか
- (2) カフェコーナーでの地酒提供はできないのか
- (3) 「風にそよぐワイングラス」の常設展示をすべきではないか

6 不動産の外国人所有の状況と懸念事案への対応について

- (1) 不動産の外国人所有実態を把握すべきではないか、また、懸念事案発生時の対応はどのようにするのか

1 ワーク・ライフ・バランス等の推進について

(1) ワーク・ライフ・バランスの機運の醸成について

ア ファザーリング全国フォーラムの誘致について、県への働きかけの結果はどうか

(2) 市の発注業務を通じたワーク・ライフ・バランスの推進について

ア 秋田市元気な子どものまちづくり企業に認定された事業所について、総合評価落札方式の評価項目に加え配点するなど、子育てサポート企業と同様に入札における優遇措置を設けてはどうか

イ 少額随意契約を行う場合において、秋田市元気な子どものまちづくり企業1者以上を見積先とする取り組みはできないか

ウ 建設工事において、完全週休2日制の工事発注を試行できないか

(3) ワーク・ライフ・シナジーについて

ア ワーク・ライフ・シナジーの考え方を浸透させていく取り組みの状況はどうか

イ 公益活動への市民参画の動機づけのため、現在策定中の市民協働指針（仮称）に、市民協働によるワーク・ライフ・シナジーについて記載するべきではないか

(4) 勤務間インターバル制度について

ア こころの健康づくりや生活習慣病予防による健康寿命の延伸など、第2次健康あきた市21を推進する立場から、企業等が同制度に取り組むことをどのようにとらえているのか、また、同制度を企業等に積極的に啓発していくべきではないか

イ 仕事と生活の調和を図ることやだれもが働きやすい職場環境づくり、子育てを社会全体で支える機運を高めていく立場から、企業等が同制度に取り組むことをどのように評価するのか、また、秋田市元気な子どものまちづくり企業認定基準に同制度を例示し、同制度の導入を推奨していくべきではないか

ウ 市役所における長時間労働を抑制し、職員が健康で元気に効率よ

く働ける職場環境を整えるため、同制度の導入に向けた試行はできないか

2 子供を産み育てやすい環境づくりについて

(1) 若い世代が子供のいる暮らしを体験できる家族留学について、実施可能性の研究状況はどうか

(2) 40歳代後半の男性の初婚数が増加するとともに、50歳代で第1子が生まれる父親がふえていることから、シングルのカフェの対象年齢を40歳代まで拡大して出会いの場を提供してはどうか、また、晩婚夫婦が子供を持つことへの不安を払拭する取り組みを行うべきではないか

3 放課後児童対策について

(1) 児童館について

ア 児童厚生員の配置状況及び欠員が発生する原因をどのようにとらえているのか、また、児童厚生員の処遇改善と児童館補助員の増員により、利用児童数に応じた適切な児童館運営体制を整えるべきではないか

イ 開館時間を午後6時半まで延長した結果、職員の負担増や経費のかかり増しとなったが、その効果についてどのように考えているのか

(2) 放課後児童クラブについて

ア 来年度以降、放課後児童クラブの新設を促すためにどのような取り組みを考えているのか、また、新設や定員の増加を加速させるため、施設の建設・改修への補助制度を早急に創設すべきではないか

4 小学校におけるプログラミング教育について

(1) 次期学習指導要領に示されたプログラミング教育について、教員の指導方法や児童の学習環境の整備について、どのように取り組んでいくのか

(2) 民間のプログラミング教室のノウハウを取り入れながら、効果的か

つ効率的に教員の指導力向上を図るため、民間との連携により、研修を充実させていくべきではないか

(3) 教員の長時間労働の実情も踏まえると、同教育の指導に当たっては、外部講師や企業等を活用する体制の構築が必要ではないか

5 スタジアム整備について

(1) スタジアム整備の検討に当たっては、建設時の財源だけではなく、維持管理運営費用も含めたスタジアムのライフサイクルコストにより、整備の可否や運営主体及び手法を考えるべきではないか

(2) スタジアム整備に当たっては、サッカークラブチームの長期にわたる安定的な運営が可能であることの判断が不可欠と思うが、運営の現状と将来展望をどのように認識しているのか、また、チームの存続のために、市が財政負担をしなければならない状況に陥る可能性はないのか

(3) 中心市街地の活性化や公共交通、市民の健康づくりなど、本市のまちづくりの観点から、どこにどのような機能を備えたスタジアムを建設することが望ましいと考えているのか、また、秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想を活用することも検討すべきではないか

6 自転車を活用したまちづくりについて

(1) 自転車活用推進法の制定・施行を受け、バスや電車といった公共交通を補完し、環境にやさしく、災害時の機動性も高く、健康の増進に資する自転車を活用したまちづくりについて、条例制定を含め、どのように考えているのか

(2) 自転車の活用を総合的かつ計画的に進めるため、同法第11条に定める市町村自転車活用推進計画の策定をどのように考えているのか

(3) 同法第14条に定められている、5月5日の自転車の日及び5月の自転車月間に、自転車の活用の推進への関心と理解を深めるためのイベントを実施する考えはないか

(4) 中心市街地の活性化のため、自転車の共同利用や利用環境の向上に

より、来街者をふやす取り組みを進めるべきではないか

(5) 万が一の事故の際に、自転車事故被害者を救済するため、安全利用に関する条例を制定し、自転車事故に関する賠償責任保険への加入を義務づけるべきではないか

(6) 健康寿命の延伸や観光振興の観点から、豊かな自然環境や温泉資源を生かしたクアオルトやサイクリング大会など、自転車を活用した取り組みを進める考えはないか

7 シェアリングエコノミーによるまちづくりについて

(1) 総務省のシェアリングエコノミー活用推進事業を活用し、本市の地域課題を解決するための方策を検討すべきではないか

(2) 本市の公共施設や空き家などの資産を有効利用する観点から、シェアリングエコノミーを活用できないか

8 二地域居住の推進について

(1) 空き家発生の抑制や地域の担い手としての協働人口をふやすため、今後、立地適正化計画で定める予定の居住誘導区域と居住誘導区域外との二地域居住の推進に取り組むべきではないか

9 旧秋田藩主佐竹氏別邸（如斯亭）庭園について

(1) 開園からの入園者の評価と今後のあり方はどうか、また、観光振興に同庭園を具体的にどのように活用していくのか

1 職員の法務能力の向上について

(1) 地方分権改革の進展等に伴い、職員の法務能力向上の必要性が高まっているが、本市ではどのような対応をしているのか

2 職員の健康管理について

(1) 病気による休職、療養休暇の取得の推移はどうなっているのか

(2) ストレスチェックの実施状況はどうか

(3) ストレスチェック実施後、その結果について分析をしているのか、また、分析済みであればどのような傾向が見られるのか、さらに、分析結果を踏まえ、今後どのように対応していくのか

3 本庁舎の利便性の向上について

(1) 市役所を訪れる市民の利便性の向上に資するため、庁舎内に郵便局を設置するよう働きかけてはどうか

4 教育について

(1) 文部科学省の調査によると、小学校教員の約34%、中学校教員の約58%で時間外勤務が過労死ラインの月80時間を超えているが、本市において教職員の労働実態を把握しているのか

(2) 8都府県に31校設置されている夜間中学について、文部科学省では各都道府県に少なくとも1校は設置するよう、設置を推進しているが、本市はどのように対応していくのか

(3) 「通学路標示」の路面標示が薄いまま対応がなされていない箇所などがあるが、小中学校の通学路の安全をどのように確保しているのか

5 地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」の配備について

(1) 国は、イージス・アショアの本市への配備を検討しているが、市民

の安全が脅かされる心配はないのか、また、本市への配備が決定した場合、どのように対応するのか

6 地域防災について

- (1) 災害による人的被害を未然に防ぐためには、行政として住民への的確な避難誘導を実施できる体制を築いておくことが重要であることから、秋田市地域防災計画を見直す必要があるのではないかと
- (2) 災害時の行動は、命を左右するものとなることから、避難者自身の判断による行動が最も重要であると考え、本市として防災教育にどう取り組んでいるのか
- (3) ことし7月の豪雨で白熊川がはんらんし、白熊沢地区の住民が河辺市民サービスセンター等へ避難したが、どのような経緯で避難するに至ったのか、また、市としてどのように対応したのか

7 救急医療情報キット（安心キット）の普及促進について

- (1) 平成22年の事業開始以来、これまで救急隊が安心キットを活用できた事例は何件あったのか、また、課題やその対応はどうか
- (2) 秋田市社会福祉協議会が実施している一人暮らし高齢者等への安心キット事業に対して、本市も補助金を支出しているが、事業効果についてどう認識しているのか
- (3) 本市における安心キットの設置世帯数は1万世帯を超えているが、全世帯数の1割にも満たないことから、市としても普及・啓発に積極的にかかわっていくべきと考えるがどうか

8 中心市街地の活性化について

- (1) 中心市街地の施設整備等について、これまで支出した経費の総額はどれくらいか
- (2) 第1期秋田市中心市街地活性化基本計画の検証結果はどうだったのか、また、その結果を第2期計画にどう反映したのか
- (3) エリアなかいちの商業施設については、テナントの入れかわりが見

受けられるが、なぜそのような状況になったと考えているのか

(4) 県・市連携文化施設に設置を予定している2,000席の高機能型ホール及び800席の舞台芸術型ホールの使われ方と稼働率をどう見込んでいるのか

(5) 旧県立美術館を利活用することで、市民にどのようなメリットがあるのか

(6) エリアなかいちの周辺に、公衆トイレや喫煙所が必要と考えるがどうか

9 スポーツの振興について

(1) はずむスポーツ都市を宣言している本市として、有望な選手の育成や競技力向上のための支援や取り組みを強化してはどうか

10 農林業等について

(1) 本市農業の現状をどのように受けとめているのか

(2) 農家を守るための市の施策や役割は何か、また、これまでその役割をどのように担ってきたのか

(3) 本市林業の将来性をどうとらえているのか、また、どのような施策を講じていくのか

(4) クマやカモシカの生息域の拡大により市民の生活環境が脅かされているが、どのような対策を講じているのか

11 エイジフレンドリーシティについて

(1) エイジフレンドリーシティについては市民の認知度が低いですが、今後どのように取り組んでいくのか

(2) 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画が策定されたが、第1次行動計画の検証は行ったのか、また、検証結果をどう反映したのか

12 地域の諸課題について

- (1) 閉院後4年以上が経過している岩見三内地区の診療所について、再開できない理由は何か、また、これまで地域医療に支えられてきた市民の思いをどう受けとめているのか
- (2) 昨年10月にオープンした河辺岩見温泉交流センターの利用状況と今後の方向性について
- (3) 市道神内大又1号線（田沢スーパー林道）について、整備が行き届いていない箇所が目立つことから、早期に整備してはどうか
- (4) バス路線の廃止により、バスを利用している市民から大変困っているとの声が上がっているが、市としての対応は考えられないのか

13 遊休市有地について

- (1) 利活用されていない市有地の状況はどのようになっているのか、また、これらの土地を今後どのように活用していくのか

14 財政について

- (1) 過去10年間の財政調整基金及び減債基金の推移をどのようにとらえているのか、また、今後10年間の見通しはどうか
- (2) 過去10年間の経常収支比率の推移をどのようにとらえているのか、また、今後10年間の見通しはどうか

1 市長の政治姿勢について

(1) 多選に対する見解について

(2) 市長公約について

ア スタジアム建設について

(ア) 市長説明において、「スタジアム整備に向けて協力していく方針に変わらない」とする姿勢からは市長公約としての意気込みが感じられない一方、知事の前向きな発言ばかりが目立っているが、知事と市長の共同公約とする際、どのような話をしたのか

(イ) 建設場所については、八橋運動公園を含め市街地とする声が多いとされているが、課題となる駐車場確保とまちづくりの視点も取り入れて考えるべきと思うがどうか

(ウ) スタジアム建設は、知事と市長の共同公約であることや県内経済の状況から、行政主導の公設の可能性が高いと思うがどうか、また、ブラウブリッツ秋田がスポーツ庁のスタジアム・アリーナ改革推進事業に選定されたことは、どう影響するのか

(エ) 建設事業費を100億円から150億円程度と聞いているが、財源内訳はどのように考えているのか、また、スタジアムの多目的利用の考えはどうなったのか

イ 泉・外旭川新駅（仮称）について

(ア) イオンタウン株式会社が計画している秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想は一部商業施設は含むものの、観光文化、食と健康、生産及び加工、医療、スポーツも取り入れる多彩なテーマパークが含まれ、クルーズ船の乗客にも対応できる新名所となり、交流人口の増による市内商店街への相乗効果も期待し、新駅とまちづくりを連動して進めていく考えはないか

(イ) 上飯島駅のようなコンパクトな駅とすることは考えられないのか

2 まちづくりについて

(1) 千秋美術館について

ア 開館以来の年間コストから見た入場者数をどうとらえているのか
イ 同館は中心市街地という恵まれた立地環境にあるとはいえ、アトリオンという複合施設の一部に位置している現状をどう認識しているのか、また、県立美術館と比較し費用対効果をどう考えているのか

ウ この機会に同館を旧県立美術館に移設し、郷土が生んだ芸術家や勝平得之記念館、土方巽芸術文化創造センター案も含め、新たな千秋美術館に再生する考えはないか

(2) 県・市連携文化施設について

ア 主に駐車場用地として見込んでいる秋田和洋女子高等学校敷地の取得金額の積算根拠はどうか

イ 概算額を約20億円と見込んでいる秋田和洋女子高等学校への建物移転補償費の内訳及び移転スケジュールはどうか

(3) エリアなかいちの商業施設について

ア あきたタニタ食堂が来年3月での撤退が発表される中、JA新あきたから市に対して「あぐりんなかいち」への支援要請が出されていると聞いているが、これまで市は商業施設とどのようにかかわってきたのか、また、今後本市として同施設の健全な運営に向けた役割をどのように担っていくのか

3 秋田市立地適正化計画について

(1) 同計画策定に当たり、第6次秋田市総合都市計画の検証を踏まえた整合性について、どのように考えているのか

(2) パブリックコメントにおける意見・要望はどのようなものがあったのか、また、その意見・要望を計画にどう生かしていくのか

(3) 居住誘導区域内の人口と事業はどのようになると考えているのか

(4) 居住区域内移転については、助成制度で支援する一方で、区域外の新たな建物については一部届け出を義務づけるとしているが、区域内

外における格差の拡大を招くとともに、区域外の発展を阻害することになると思うがどうか、また、区域外にある既存の福祉施設等の改築や増築、建てかえについてはどうか

(5) 市街化区域内でも線引きが行われることから、都市計画の見直しが必要と思うがどうか、また、居住誘導区域外の土地については固定資産税の課税見直しを行うべきと思うがどうか

(6) 市街地開発を誘導するとした場合、格差が懸念されることを踏まえ、都市計画税を導入する考えはないか

4 秋田市橋梁長寿命化修繕計画について

(1) 同計画では、予防的な維持管理への転換により、今後およそ40年間で68%の維持管理費の縮減効果が見込めるとしているが、橋のかけかえも含めた今後の維持管理費の見込みについてどのように考えているのか

(2) 長寿命化工事に当たり、社会資本整備総合交付金等が原資とはいえ、設計段階で工事箇所の町内に対してどのように対応しているのか

(3) 今年度に工事を行った杉崎橋について

ア 同橋は、平成26年度に実施した定期点検で早期に措置を講じる段階であると診断されており、単なる長寿命化工事ではなく、かけかえを望む地域住民の切実な声は伝わっていたはずであるが、どのような経緯により予防的な工事を行ったのか

イ 同橋の工事に当たり、緊急性が感じられない中で、あえて災害等が生じる危険性の高い梅雨時の工事としたのはなぜか

5 農業問題について

(1) 県が示した今後5年間の米づくり指針をどう受けとめているのか、また、本市稲作をその方向性で推進していく場合の誘導策をどう進めていくのか

(2) 今後の生産数量目標については、市が中心となってJ Aや民間業者等が参加している秋田市農業再生協議会の協議にゆだねるとしている

が、農家への個別配分はどのようにして行うのか、また、生産過剰への対応についてはどう考えているのか、さらに、全体管理はどのように行っていくのか

(3) 米政策の推進について、県内市町村長と国との意見交換会が報じられていたが、その意見交換会や全国市長会等を通じ、少なくともことしの水準の財源確保に向けた要請活動を行うべきと思うがどうか

(4) 主要農作物種子法の廃止に伴う対応について

ア 国会での附帯決議があるとはいえ、主要農作物種子法の廃止は知的財産の海外流出に道を開き、遺伝子組みかえ種子や新品種が特許となり種子価格高を招き、日本の食が脅かされる可能性も報道されているが、市長の認識はどうか

イ 都道府県の農業試験場は今の農業生産体制下では必要不可欠な役割を担っていることを踏まえ、市町村が県と連携して国に対し種子法の精神に沿った予算措置を求めるべきと思うがどうか

ウ 種子生産は今後県の裁量にゆだねられる面が大きくなることから、本市のみならず県内市町村と連携して、県に種子生産活動の存続を働きかけるべきと思うがどうか

(5) 第141回秋田県種苗交換会が、来年、本市で開催されることが決定したが、本市経済の活性化に寄与するイベントとなるため、会場を含めた受け入れ準備体制について、どのように考えているのか

(6) J A新あきたとJ A秋田みなみの先行合併が決まり、来年4月よりJ A秋田なまはげが発足するが、行政区域を超えたJ Aになることによる営農指導や農家のパーティを標榜する本市ブランド等に、どのような影響があると考えているのか

6 環境行政について

(1) CO₂削減対策について

ア 地球温暖化対策の推進に向け、本市の数値目標達成の現状はどうか、また、今後市民へのさらなる意識啓発をどのように進めていくのか

イ あきたスマートシティ・プロジェクト開始から市の事務事業におけるこれまでの地球温暖化対策への取り組みはどうか、また、今後の取り組みについてどのように考えているのか

ウ 本市の溶融炉の燃料に由来するCO₂排出量は削減できているのか、また、バイオマス燃料の使用を含めた今後の削減の可能性について、どのように考えているのか

エ 森林の適正管理による市有林のオフセット・クレジットの売却額を含めた効果の検証と今後の拡大の可能性について、どのように考えているのか

(2) 家庭系ごみの処理等について

ア 多くの市で実施され、また、市民からの要望の多いごみ袋製造費用の市負担について、どのように考えているのか

イ 家庭ごみ処理手数料相当額の半額を積み立てている一般廃棄物処理施設整備基金の目標金額はどのくらいに設定しているのか

ウ 高齢者世帯に対するごみ出し支援を検討してはどうか

エ 高い割合を占めている生ごみの減量促進について、どのように取り組んでいるのか

1 市長の政治姿勢について

(1) 内部統制の構築について

ア 事務処理の適正さを確保する上でのリスクを評価して、みずからコントロールする取り組みが重要と考えるが、本市の内部統制の課題とその対策はどうか

イ 内部統制に関する方針及び体制整備に向け、今後どのように取り組んでいくのか

(2) 地方創生に向けた取り組みについて

ア 3年目を迎えている秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標と、主要KPIの進捗状況及び課題・対応策は何か

イ 若い世代が結婚し、子供を産み育てていくためには、安定した雇用の創出とともに一定の所得が重要であるが、所得向上にかかわる本市の取り組みは何か

(3) 臨時・非常勤職員の勤務条件等の改善について

ア 行政需要の多様化への対応及び公務の能率的かつ適正な運営を推進するため任用されている臨時・非常勤職員の休暇制度・手当等の見直しが必要と考えるがどうか

イ 今後施行される、地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の運用における、適正な任用等の確保及び会計年度任用職員に対する給付をどのように整備するのか

2 まちづくりについて

(1) 立地適正化計画について

ア 立地適正化計画策定の進捗状況及び課題はどうか、また、今後の実現に向けどのように体制を整備し推進していくのか

イ 暮らしの場とともに誘導を目指している働く場としての誘導エリア及び誘導施策は何か

(2) 秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想について

- ア 平成29年2月定例会の答弁における同構想の内容の大幅変更、あるいは同構想の内容の具体とは何か
- イ 同構想により民間の力を活用した、交流人口の拡大につながる拠点の構築を検討すべきと考えるがどうか
- ウ 老朽化が進んでいる卸売市場の改築・建てかえ等と同構想との連動した取り組みを検討できないか
- エ 設置を目指している泉・外旭川新駅（仮称）の利便性や利用価値向上のため、同構想と一体化した取り組みが必要と考えるがどうか

3 子供の貧困対策について

(1) 子供の貧困に対する施策について

- ア 秋田市子どもの未来応援計画において、施策の基本的な方向性を設定し貧困対策に取り組んでいるが、その進捗状況はどうか、また、課題及び対応策は何か
- イ 子供の貧困対策庁内連絡会を設置し施策に取り組んでいるが課題は何か、また、秋田市民協働事業の具体的な取り組みは何か

(2) 本当に支援が必要な子供を支援するために、貧困の状況にある、または貧困の状況に陥るおそれのある子供と家庭を早期かつ積極的に把握し、対策を講じるべきと考えるがどうか

(3) 切れ目のない支援を行うため「つなぐシート」等の活用をするなど、相談機能の連携を強化すべきと考えるがどうか

(4) 地域での学習支援や食の支援も含めた交流支援の拡充及び市施設や地域の空き家・空き店舗等を利用した子供の居場所づくりの推進が必要と考えるがどうか

4 地域コミュニティーについて

(1) 協働除雪体制の整備について

- ア 御所野地区では、町内会と連携した除排雪への取り組みを行っているが、評価及び他地域への展開をどのように考えているのか
- イ 地域での除雪ボランティア活動を推進するため、除雪機等の貸与

の拡充や児童センターへの配置の拡大及び除雪機メンテナンス等への助成等、支援を拡充すべきと考えるがどうか

(2) 高齢者のみならず、若者・子供の居場所づくりとしての地域サロンの拡充に向け、運営費の助成等、支援を強化すべきと考えるがどうか

5 ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）について

(1) 小児医療チームの一員として、遊びを通して子供たちに行われる医療行為や医療プロセスを理解させ不安感を軽減することを可能にするホスピタル・プレイ・スペシャリストを、どのように認識し評価しているのか

(2) 本市におけるホスピタル・プレイ・スペシャリストの活動の場の拡大支援及び育成推進が必要と考えるがどうか

6 特定健診について

(1) 平成20年から実施されている特定健診は8年が経過したが、特定健診受診率の現状及び課題は何か

(2) 特定健診受診率の向上に向けたより効果的な対策として、現状の対策で深掘りできること、また、新たにできることは何か

1 市長の政治姿勢について

(1) 地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」の配備について

ア 政府が配備を進めようとしている「イージス・アショア」について、市に説明はあったのか

イ 新屋地域へ配備されることとなった場合、周辺環境への影響をどう考えているのか

ウ 「イージス・アショア」の配備に伴う基地施設の設置について、政府に対し反対の意思を表明すべきではないか

2 災害対策について

(1) 7月及び8月の豪雨災害への対応について、検証結果から検討すべきことは何か

(2) 市民への避難指示等は的確であったのか

(3) 災害時、各市民サービスセンターが被害状況と市民の安否を確認する体制は整っているのか

(4) 各市民サービスセンターにおいて、河川のはんらんや水害を想定した防災訓練を実施すべきではないか

3 泉・外旭川新駅（仮称）について

(1) 新駅の利用について、改めてニーズ調査をすべきではないか

(2) 市全体の公共交通体系の確立を優先すべきであり、新駅の整備を急ぐ必要はないのではないか

4 除排雪について

(1) コールセンターに寄せられた要望やクレームに対して、市ではどのように対応しているのか

(2) いつ、どこに除排雪指示が出ているのかを、市民が把握できるよう

にすべきではないか

5 家庭ごみの処理等について

- (1) 家庭ごみ処理手数料が導入されてから5年になるが、その間のごみ減量の状況をどう評価しているのか
- (2) 家庭系一般廃棄物の処理について、市民と自治体の責務をどう認識しているのか
- (3) さらに家庭ごみの減量に向け、分別項目をふやし市民の協力を得るべきではないか
- (4) これまで以上に、市民や団体等へ環境美化やごみ減量につながる取り組みを促し、その取り組みに対し補助すべきではないか
- (5) 家庭ごみを10%削減するためには、1リットル1円の手数料が必要という考え方は今も変わらないのか
- (6) 家庭ごみの減量には限界があるが、どの時点で手数料の役目を終えさせると考えているのか

6 学校教育について

- (1) 小中学生が重い荷物を持って登下校している実態をどう認識しているのか
- (2) 部活動について
 - ア 部活動指導員の活用によって、教職員の多忙化は解消されるのか
 - イ 部活動により、生徒や保護者の時間的、経済的負担が大きくなっているが、部活動のあり方を改善する考えはないか

1 市長公約について

(1) (仮称) 秋田市中小企業振興基本条例の制定について

ア 同条例の特徴及び県条例との違いについてどのように想定しているのか

イ 同条例と商工業振興条例及び中小企業融資あっせん条例との関係をどのように位置づけているのか

ウ 同条例の制定に合わせた商工業振興条例の見直しについて、どのように考えているのか

(2) 本市の目指す給付型奨学金制度の対象者、金額、財源及び実施時期等について、具体的内容をどのように想定しているのか

2 豪雨による災害対策等について

(1) 国、県管理の河川については、河川改修、未着工堤防の着手、堤防のかさ上げ、堆積土砂の除去、雑木処理等について早急に対策を講じるよう強力に要望・進言すべきではないか、また、これまでの国、県の取り組み及び市の要望等への回答に対しての認識はどうか

(2) 秋田運河の堆積土砂を除去するなど、流下能力向上の対策を県に要望する考えはないか

(3) 岩見川の堆積土砂の除去及び雑木伐採処理並びに地蔵川の堆積土砂の除去について県に要望すべきではないか

(4) 本市管理の河川については、市民の命と財産を守るためにも防災に係る予算を増額するとともに、早期に対策を講じ、市民の期待にこたえるべきではないか

3 人事管理等について

(1) 今後の再任用職員及び臨時職員等の採用の見通しはどうか、また、再任用職員と臨時職員等の採用についての関連性についてどのように考えているのか

- (2) 専門性の高い識見と企画力が求められる施設の館長などは、専門的な知識を有する職員を配置すべきではないか
- (3) 地方自治法等の改正により、臨時職員等の待遇改善が求められることとなったが、本市はどのような方針に基づき対応するのか

4 福祉行政について

(1) 地域包括ケアシステムの構築について

- ア 本市の在宅医療・介護連携の推進に向けた取り組み状況及び課題は何か
- イ 認知症施策における早期支援の現状と課題は何か
- ウ 地域ケア会議では、個別の事例や地域の課題についてどのような検討がなされ、今後どう生かしていくのか
- エ 同システムの構築に当たり、医療現場の人材不足等の課題について、どのように認識しているのか

(2) 中央地区老人福祉総合エリアについて

- ア これまで20年以上第Ⅱ期工事を延期した理由は何か
- イ 延期となっている本市分の第Ⅱ期工事は今後どうなるのか
- ウ 同エリアにおいて本市が保有する土地にはまだ多くの未利用地が残されているが、高齢化社会に対応できる新たな利用計画を策定すべきではないか

5 千秋公園再整備基本計画等について

- (1) 現行計画をどのように検証したのか、また、その内容はどうか
- (2) 現行計画では、松下門、黒門、唐金橋等の復元が盛り込まれているが、新たな計画では失われた久保田城の建物の復元をどのように位置づけるのか
- (3) 同計画の改定に当たり、公園自体の魅力の向上をどのように考えているのか
- (4) 大型バスや県外客に向けた駐車場を確保すべきではないか
- (5) 旧県立美術館を佐竹史料館に活用する場合、どのような課題がある

のか

- (6) 佐竹史料館を現地建てかえするメリットは何か、また、規模、予算及び建設時期はどうか

6 今冬の除排雪対策等について

- (1) 効果的な道路除排雪に向けた今冬の取り組み及び堆雪場の確保はどうか
- (2) ホームページ及びケーブルテレビにおけるGPSを活用した除雪車両の情報提供については、利用率向上に向けた対策が必要ではないか
- (3) 地域と行政のパイプ役である地域情報員が十分活用されていないことから、町内会長への周知及び地域情報員への指導を強化すべきではないか

7 公共下水道受益者負担金について

- (1) 市街化調整区域における受益者負担金の賦課対象区域、賦課方法が変更されているが、従前との整合性をどのように考えているのか、また、その根拠法令は何か
- (2) 市街化調整区域における整備方針によれば、公共下水道工事完成後、新たに建築物を建設し、その汚水を公共下水道に接続希望する場合は、希望者の負担により接続工事を実施し、受益者負担金賦課の所定の手続を行うとしているが、公平の原則に反するのではないか
- (3) 現在は市街化調整区域における一定の区域で、建物の建設ができるようになっていることから、市街化調整区域の受益者負担金の賦課対象区域の公告、賦課方法を見直すべきではないか

8 地域の諸課題について

- (1) 芝野橋における現況調査の結果と今後の方針はどうか
- (2) 地蔵田遺跡資料館の建設を検討すべきと考えるがどうか

1 地方自治法施行70周年の節目に当たって

(1) 地方自治をめぐる現状と課題をどのようにとらえているのか

(2) 自立した行財政経営の確立について

ア 本市が自立したまちづくりを進めるとともに、持続可能な自治体経営を確立するためには、どのような戦略が必要か

イ 本市財政の現状をどのように認識しているのか、また、財政規模縮小時代における財政運営はいかにあるべきと考えているのか

ウ 平成30年度予算編成方針の基本的な考え方において、特に重きを置く点は何か

(3) 市民自治のさらなる進展のために

ア 「自治の主体」としての市民と行政との関係性について、全庁的に再認識、再確認を図る必要はないか

イ 市民の自治意識、参加・参画意識のさらなる向上・進展を図るための方策は練られているのか

ウ 都市内地域分権制度が目指している住民自治の理想の姿は、全庁的に理解・認識されているのか、また、その実現に向け、どのような観点で取り組んでいるのか

エ 市民との情報共有について

(ア) 市民との間で情報共有を図るため、全庁的にどのような視点・工夫のもとで取り組んでいるのか

オ 市民と行政との役割分担、情報共有及び連携・協働による市政の課題への取り組み状況について

(ア) 本年7月の豪雨災害の教訓から学ぶべき最重要課題と対策は何か

(イ) 観光振興に向けて、どのような視点で取り組んでいるのか

(ウ) コンパクトなまちづくりと公共交通の活性化に向け、どのような視点で取り組んでいるのか

(4) 住民福祉の増進について

- ア 国内動向として、社会的・政策的なリスクともされる生活・健康・将来等の不安を初め、孤立化などが拡大する「不安の時代」とも言われる今日において、本市が「自治体の役割」として、生存権など憲法を踏まえながら市民福祉の向上を図るためには、どのような考え方と方向性に立つべきと考えているのか
- (5) 国政の方向性を踏まえた喫緊かつ重要な課題への対応策について
- ア 人口減少社会への対応について
- (ア) 「秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進上の課題は何か、また、今後の人口減少対策に資するための改善点や新しい取り組みはあるのか
- イ 労働・産業政策について
- (ア) 雇用環境の変化を踏まえ、雇用の質の向上に向けて、どのように取り組んでいるのか
- (イ) 地域産業の競争力強化のための戦略は、どのように展開されているのか
- (6) 当面の大規模事業について
- ア 大規模事業の推進に当たって、特に考慮している点は何か
- イ 泉・外旭川新駅（仮称）等整備事業について
- (ア) 事前調査から「設置箇所」及び「整備形態」の確定に至るまでの経緯について
- ウ 県・市連携文化施設整備事業について
- (ア) 秋田和洋女子高等学校の建物移転補償費の内容はどうなっているのか、また、事前調査から移転の大筋の合意に至るまでの経緯及び結果についてはどうか
- (7) 地方自治体の自主・自立と社会のグローバル化時代におけるリーダーシップについて
- ア 本市では幹部職員に対して、どのようなリーダーシップを期待しているのか
- イ 県都として、また、その首長としてのリーダーシップを、どのように発揮していくのか

1 市長の政治姿勢について

(1) 泉・外旭川新駅（仮称）について

ア 市長が一貫して公約に掲げる同駅の設置に対する熱い思いは何か

(2) スタジアムの整備について

ア J2ライセンス取得のための八橋陸上競技場の改修についての考え方はどうか

イ 八橋陸上競技場の改修を行う場合の財源や費用負担についての考え方はどうか

2 財政について

(1) 平成28年度決算について

ア 自主財源比率が上昇していないことについて、どのように認識しているのか

イ 公債費関連指標が類似都市平均を下回っていることについて、どのように認識しているのか

ウ 市債発行の抑制と残高の縮減について、どのように取り組んでいるのか

エ 地域の活性化や雇用創出のため、一定規模の投資的経費を確保すべきと考えるがどうか

(2) 中・長期的財政見通しに基づく財政運営について

ア 今後の大規模事業の実施について、どのように考えているのか

イ 豪雪や豪雨災害のような大きな災害に対する備えはできているのか

3 （仮称）あきた芸術祭について

(1) 芸術祭の開催に向けた市民の機運醸成を図るために、これまでどのように取り組み、その結果、現時点で見えてきた芸術祭の方向性をどのように考えているのか

(2) 秋田公立美術大学との連携を含め、芸術祭の開催に向けて、今後どのように取り組んでいくのか

(3) 芸術祭の開催に必要な組織体制、予算規模、民間との協働・連携等をどのように考えているのか、また、市民へのPRのためにも、開催年度や目的などを明確にし、情報を発信していくべきではないか

4 ねんりんピック秋田2017について

(1) 大会の開催による経済波及効果はどうだったのか、また、それをどのようにとらえているのか

(2) 大会を通して、改めて健康長寿のすばらしさを実感することができたが、その成果を市民の健康づくりや生きがいづくりの推進など、今後の施策にどのように生かしていくのか

5 秋田市立地適正化計画について

(1) 同計画の策定に当たり、経済活動の観点から検討している事項はあるのか、また、土地利用規制の緩和について検討している事項はあるのか

(2) 都市機能誘導や居住誘導を効果的に進めるため、具体的にどのような施策を考えているのか

6 小・中学校の適正配置について

(1) 今後、どのような考え方で検討を進めていくのか、また、検討スケジュールについてはどうか

(2) 検討を進めるに当たり、十分な組織体制を整えるべきと考えるがどうか

7 市役所駐車場について

(1) 混雑の要因はどこにあると考えているのか

(2) 閉庁時における有料化など、混雑緩和に向けて検討する考えはないか

8 公用車について

- (1) 本庁舎における公用車の購入費や維持管理費はどれくらいか、また、運行状況を踏まえ、その実態をどのようにとらえているのか
- (2) コスト縮減や事故発生リスク低減の観点から、公用車の台数を減らし、路線バスやタクシー等の積極的な活用に努めるべきではないか

1 市政経営に対する市長の基本姿勢について

- (1) 安倍政権が掲げる「生産性革命」及び「人づくり革命」について、市長はどのようにとらえ、市政に取り込んでいく考えなのか
- (2) 交流人口の拡大と本市の活性化を進めるため、秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の成果をどのようにとらえ、今後、どのように展開していくのか
- (3) 来年の戊辰150周年を機に、NHK大河ドラマを本市へ誘致するよう積極的に活動すべきではないか
- (4) 高齢者の交通事故減少と公共交通機関の利用を促すため、運転免許証返納者への代替交通支援事業として、「マイ時刻表」などを実施する考えはないのか

2 まちづくりについて

- (1) 中心市街地の活性化策について
 - ア 広小路、中央通りの対面通行の調査状況はどのようになっているのか
 - イ 仲小路に大屋根を建設する考えはないか
- (2) 泉・外旭川新駅（仮称）について
 - ア 公共施設等整備基金を、新駅等の整備のために取り崩すことは、基金の使用目的に当たらないと思うがどうか
 - イ 卸売市場、病院、イオンタウンの構想など、本市の将来を考えたとき、新駅の設置場所は適切と思うか

3 ICTの活用について

- (1) 市民サービスの向上や行政事務の効率化を図るため、さらなるICTの活用に取り組むべきと考えるがどうか
- (2) ICTの進展や市民ニーズの多様化・高度化に向き合い、課題を整理し情報化推進に取り組むための、中・長期的ビジョンを策定すべき

と思うがどうか

4 上下水道事業について

(1) 仁井田浄水場更新の検討状況について

ア 現在、検討はどの段階まで進んでいるのか

イ 更新に必要な事業費及び施設の稼働時期は決まったのか

ウ 更新した施設が稼働するまで、今後どのような行程で進むのか

(2) 下水道事業について

ア 生活排水処理事業の効率的事業運営について

イ 秋田臨海処理センターと八橋下水道終末処理場の汚水処理機能統合の進捗状況と今後の見通しについて

ウ 下水道の整備状況と今後の予定について

5 農業政策について

(1) 農業協同組合の合併等について

ア 新あきた農業協同組合と秋田みなみ農業協同組合の合併に対する認識について

イ 合併後の秋田なまはげ農業協同組合と本市、男鹿市及び潟上市との連携をどのように進めていくのか

(2) 減反廃止により、今後の農業政策の変化にどう対処していくのか

6 大森山自然動物公園について

(1) 大森山動物園を本県の観光施設と位置づけ、県・市連携で観光ルートづくりに取り組むべきと思うがどうか

(2) 本市の観光ツールととらえ、竿燈ポスターの一部に動物園も入れるなど全国にPRするとともに、コース化することや、小中学生を対象としたイベントの開催を考えるべきではないか

(3) 主要地方道秋田天王線から同公園への一方通行規制の改善や、新たな道路整備が必要と思うがどうか

(4) 大森山自然動物公園（仮称）整備構想の改訂に当たって、秋田市大

森山動物園条例を、公園を含めた条例に改めるべきと思うがどうか

7 教育・スポーツ行政について

- (1) 中学校の教員にとって、部活動とそれ以外の業務の両立が必要と思うが、本市の実態はどうか、また、両立するための対応策は講じられているのか
- (2) 老朽化した体育施設のふぐあい箇所について、計画的な修繕を考えているのか
- (3) 総合型大規模体育館（アリーナ）の新設を検討すべきと思うがどうか
- (4) 全天候型スタジアムの新設について、早期にスタジアム整備のあり方検討委員会の中で主張すべきではないのか

8 大住地区における7月の豪雨災害の経験を踏まえた諸課題について

(1) 防災対策について

- ア 消防及び警察と災害対策本部等との連携、連絡体制の課題は何か
- イ 民間施設を含めた近場の避難所を検討し、水害や地震など災害に応じた避難所を明確にする考えはないか
- ウ 避難所等を安全に利用できるよう、改善や対応策を構じるべきではないか
- エ 今回の水害は、自動車の被害が多発したことから、自動車の待避場所の確保も必要と思うがどうか
- オ 当局における、休日や勤務時間外の災害発生時の体制づくりはどうか

(2) 浸水被害対策について

- ア 日常的に浸水被害が発生している箇所は、常設ポンプの設置が必要と思うがどうか
- イ 古川下流部の護岸整備工事は、早期に完成させるべきではないか、また、現在実施しているしゅんせつ工事を強力に進めるべきではないか

ウ 旧農業試験場跡地の未活用箇所に、雪捨て場を兼ねた大規模貯水池を建設できないか

9 地域の諸課題について

(1) 住居表示について

ア 本年度、上北手地区で住居表示を実施する予定としているが、今後の計画はどのようになっているのか

イ 住居表示の実施に当たり、地域住民の意見をどのように反映させているのか、また、今後どのように取り組んでいくのか

(2) 太平川観桜会場の環境整備について

ア 太平川兩岸の環境整備を早急にすべきではないか

イ 桜並木の良好な保全のため、夜間照明の改善はできないか